

かじか



岩国市立美川小学校
コミュニティ・スクールだより
R3. 5. 6 第251号-1

「オレ、カエル やめるや」で考えたこと

教頭 岡崎 邦恵

美川小学校のラスト1年がスタートしました。今年度は、「地域の方々と積極的に関わり、美川小の思い出作りをしよう！」をモットーに、子どもたちと頑張っていきます。しかし、子どもたちに「思い出作りでどんなことをしてみたい？」と聞くと、「・・・」。「○○はどうかなあ」と聞くと、「じゃあそれで」と返事が返ってきます。素直で言われたことには一生懸命取り組む子どもたちですが、大人しく、失敗を恐れ、自分からいろいろなことにチャレンジしたりすることがちょっと苦手です。そんな子どもたちに、私たち大人の中には、少々もどかしさを感じられる方もいらっしゃるかもしれません。

先日、自動車図書館で「オレ、カエル やめるや」という絵本を借りました。題名が気に入りたまたま手に取った絵本ですが、すっかりはまってしまいました。カエルくんは、「ヌルヌルしているからカエルをやめたい」と思います。「あのさ、おとうさん。オレ、ネコになることにするや。」と言うと、「無理！おまえはカエルだから」とお父さんに言われてしまいます。その後、ウサギやブタ・いろいろななりたいものを言うのですが、ことごとく否定されてしまいます。読んでいてカエルくんがかわいそうになってきました。でも、最後にカエルくんは自信をもって「カエルでよかった」と言います。

さて、美川小学校の子どもたちはどうでしょう。自信のものは「自己肯定感」と言われます。「自己肯定感」とは、その言葉通り「自己を肯定する感覚」のことです。自己肯定感が高いと、自分に自信を持ち、自分の可能性を信じて、何事にも積極的に取り組んでいけます。美川小の子どもたちは、素敵な考えや思いをたくさん持っています。でも、「こんなことを言ってもいいかなあ」「みんなはどう思うかなあ」という気持ちから、なかなか声に出したり、行動したりできないようです。総合的な学習の時間に「美川町のよさ」や「よさを伝え広げるためにどうしたいか」ということについてプリントにまとめていました。「自然が豊か」「地域の人々が温い」「大きい声で挨拶をしたい」などなど、自分の考えをたくさん書いていました。そんな子どもたちが自信をもって取り組めるようにするためには、私たち大人が、子どもを認めたり、褒めたりして、いろいろなことにチャレンジさせることが大切です。日々の生活や様々な行事の中で「自分は必要とされている」という自己肯定感を育てていくことが大切です。子どもたちが大人になったとき、社会の中で「これをやらなければ」「これをやりたい」と自ら果たすべき役割を見つけて実現できるようにしていかなければならないと思います。



文：デヴ・ペティ
絵：マイク・ポルト